

平成27年度 鶴巣小学校の取り組みについて

大和町立鶴巣小学校

1 はじめに

本校では平成24年度よりユネスコスクールに加盟し、身近な環境に親しむ教育に取り組んで来ている。総合的な学習の時間として、中学年では、3年「田んぼの生き物調べ」・4年「鶴巣の自然を探ろう」の学習に取り組んできた。身近な自然に触れる体験活動を通して、自然の尊さや豊かさ、地域の良さに気づかせ、地域の自然・環境を大切にしていこうとする態度を育てることをねらいとしている。

2 平成27年度 中学年部の取り組み

【3学年】

<6月>田んぼの生き物調査



【4学年】

<6月・9月> 川の生き物調べをしよう



6月と9月に、宮城教育大学フィールドワーク研究会「YAMOI」の協力を得て、身近な川の生き物調べを行った。「川に入って網ですくう」、「釣りをする」という体験をおこなった。子どもたちは、初めての体験に興味をもって取り組むとともに、鶴巣の川には、在来種や外来種など多様な生き物がいること、絶滅が危惧される貴重が生き物がいることを理解した。また、川の周りの自然（植物や昆虫）にも目を向けることができた。

<10月・11月>

川の生き物調べの体験を経て、興味をもったこと、調べてみたいことについて次のような課題を設定して調べ活動をおこなった。

「絶滅危惧種マタナゴについて」
「身近な外来植物について」
「鶴巣の川について」
「外来種アメリカザリガニについて」
「昆虫の保護色について」

<11月>

宮城教育大学フィールドワーク研究会「YAMOI」を招いて、調べてまとめたことの発表会を行った。



3 おわりに

身近な地域の自然に触れる機会は、子どもたちにとって貴重な体験である。多様な生き物や植物とのかかわりを通して、身近な環境がとても豊かで、大切なものであることに気づくことができた。